

実技科目

目次

専攻実技(ピアノ).....	1	専攻実技(作曲).....	9
専攻実技(ヴァイオリン, ヴァイオラ).....	2	専攻実技(指揮).....	10
専攻実技(チェロ).....	2	副科実技(ピアノ).....	11
専攻実技(コントラバス).....	3	副科実技(弦楽器).....	11
専攻実技(管楽器).....	4	副科実技(管楽器、打楽器、ハープ).....	12
専攻実技(打楽器).....	5	副科実技(古楽器).....	13
専攻実技(マリンバ).....	6	副科実技(声楽).....	14
専攻実技(ハープ).....	6	副科実技(作曲).....	15
専攻実技(古楽器).....	7	副科実技(指揮).....	16
専攻実技(声楽).....	8		

専攻実技(ピアノ)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	6 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

ピアノ実技レッスンを通して様々な時代のピアノ音楽を知ると共に、演奏テクニックを身につける。また、楽譜の読み方、様式感等、音楽家として必要な基礎知識と理解力を養う。

4年間の個人レッスンが基本となるが、在学中幅広くスタンダードなレパートリーを学習するよう試験の課題曲が設定されている。3年次にはコンチェルトが試験の課題になる。

また、年間6、7名の招聘講師が来校し、特別レッスンや公開講座が頻繁に行われている。学生はその全てを聴講でき、公開講座は単位修得に結びつく。テクニックのグレード試験を年4回実施している。決められた課題で順を追って受験する。3年次までに少なくともグレード3まで修めなくてはならない。その他、桐朋ピアノ・コンペティション、桐朋ピアノコンチェルト・コンペティション、成績優秀者によるスチューデントコンサート、木の香りコンサート等開催し、活発な演奏経験を促している。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

様々なスタンダードなレパートリーに幅広くアプローチする中で、各自 4 年間の取り組みを通しての卒業時での到達点を見極め、2 回に渡る卒業試験のプログラムとして発表する。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ピアノ専攻生および副専攻生

【授業の形式】

レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。卒業成績は公開演奏と学内での試験の成績で評価する。

【事前・事後学習-前期】

レッスンがスムーズに運べるよう、事前の練習、用意をしっかりとしておくこと。レッスン後には注意点を把握し、改善して次のレッスンに臨むこと(目安 1 日 3 時間以上)

【事前・事後学習-後期】

レッスンがスムーズに運べるよう、事前の練習、用意をしっかりとしておくこと。レッスン後には注意点を把握し、改善して次のレッスンに臨むこと(目安 1 日 3 時間以上)

【オフィスアワー】

各担当教員に確認すること。責任者のオフィスアワーは金曜日5限後アネックス

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(ヴァイオリン, ヴィオラ)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	6 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

週 1 時間の個人指導。クラス単位の演奏実習。ソリストとしてオーケストラとの協演の機会を持ち、コンサートでの体験を行う。演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

楽器の基礎技術の向上、楽曲の様式感、和声感の理解力の向上、また演奏家としてのあり方、室内楽やオーケストラとのアンサンブル技術の向上を目指す。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ヴァイオリン、ヴィオラ専攻生及び副専攻生

【授業の形式】

【対面を中心】演習。実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。卒業時は公開演奏形式での試験とする。

【事前・事後学習-前期】

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し習得できるよう練習する。レッスン後には修正点や今後の課題について確認し、復習する。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し習得できるよう練習する。レッスン後には修正点や今後の課題について確認し、復習する。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

火曜日 午後 仙川教室にてレッスン前後に時間を確保します

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(チェロ)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	6 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

それぞれの個性を重視し、卒業後も音楽家として伸びていけるよう配慮している。個々の学生に適切な教則本や曲を選び、指導する。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

深い創造性、高い技術、広い人間性を持った音楽家を目指す。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

チェロ専攻生または副専攻生

【授業の形式】

実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。演奏曲への理解度と共に完成度などを総合的に判断する。

卒業時は公開演奏形式での試験とする。

【事前・事後学習-前期】

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し習得できるよう練習する。レッスン後には修正点や今後の課題について確認し、復習する。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し習得できるよう練習する。レッスン後には修正点や今後の課題について確認し、復習する。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

月曜・土曜の午後 仙川教室にてレッスン前後に時間を確保します。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(コントラバス)					
担当教員			曜日時限		
実施キャンパス	単位	6単位	対象年次	学部1年～	

【授業の概要】

週1時間の個人指導。ソロとオーケストラの曲を研究する。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

演奏法・指導法を、様式感・和声感などから多角的に検討しながら、プロフェッショナルな演奏家、教師を目指す。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

コントラバス専攻生および副専攻生

【授業の形式】

【対面を中心】演習。実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。テクニック、音楽性など総合的に判断する。卒業時は公開演奏形式での試験とする。

【事前・事後学習-前期】

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し習得できるよう練習する。レッスン後には修正点や今後の課題について確認し、復習する。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し習得できるよう練習する。レッスン後には修正点や今後の課題について確認し、復習する。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

火曜日 午後 仙川教室にてレッスン前後に時間を確保します

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(管楽器)					
担当教員			曜日時限		
実施キャンパス	単位	6単位	対象年次	学部1年～	

【授業の概要】

管楽器奏法の基礎ならびに応用。楽器の構造を理解し、適切な演奏法を研究する。作品について、時代背景・様式なども含めて見識を深める。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

ソロだけではなく、室内楽やオーケストラなど様々な分野で応用出来るような、高度な技術と適切な表現方法をマスターする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

管楽器専攻生および副専攻生

【授業の形式】

実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時対応する。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(打楽器)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	6単位	対象年次	学部1年～

【授業の概要】

打楽器の基本実技とその応用を習得する。プロフェッショナルな演奏家の基礎を作る。打楽器全般の基本奏法を学び、Solo、室内楽、オーケストラの演奏に対応できる奏者を目指す。個人指導が基本だが、少人数の分奏形式で行う場合もある。演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

ソロだけではなく、室内楽やオーケストラなど様々な分野で応用出来るような、高度な技術と適切な表現方法をマスターする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

パーカッション専攻生・副専攻生

【授業の形式】

実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時対応する。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(マリンバ)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	6 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

マリンバの豊かな音色・音楽を創るための技術・音楽性の向上を目指す。楽器独自の深いサウンドを出せるように演奏法を研究し、世界のオリジナル作品を理解し、見識を深める。日本発信のオリジナル作品を大切にします。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

ソロだけではなく、室内楽やオーケストラなど様々な分野で応用出来るような、高度な技術と適切な表現方法をマスターする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

マリンバ専攻生・副専攻生

【授業の形式】

実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時対応する。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(ハープ)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	6 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

ハープ奏法の基礎ならびに応用。楽器の構造を理解し、適切な演奏法を研究する。作品について、時代背景なども含めて見識を深める。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

ソロだけではなく、室内楽やオーケストラなど様々な分野で応用出来るような、高度な技術と適切な表現方法をマスターする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ハープ専攻生

【授業の形式】

実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時対応する。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(古楽器)					
担当教員			曜日時限		
実施キャンパス	単位	6単位	対象年次	学部1年～	

【授業の概要】

古楽器演奏の基礎と応用を学ぶ。各自のレベルに応じた実技レッスンを通して、様々な古楽のレパートリーに接するとともに、基本から応用にいたる技術を身につける。また記譜法、装飾方、演奏様式など古楽演奏に必要な諸知識と理解力を養う。演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

古楽ではさまざまな様式の理解と表現が重要な意味を持つ。学生は演奏技術の習得とともに、様式性の理解に努める。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

古楽器専攻生

【授業の形式】

【対面を中心】演習。 レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時対応する。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(声楽)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	6 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

4年間の一貫した個人レッスンを通して、声楽家としての演奏能力を養う。

1年次においては、ヴォカリーズによる練習曲(Concone、Panofka、Vaccaj、Marchesi、Lütgen 等)を適宜使用し、正しい発声技術を習得する。原則的にイタリア古典声楽曲集、Bellini、Rossini、Tosti、Donaudy 等イタリア語の歌曲集を中心に学ぶものとするが、個々の学生の進度によってはこれにこだわらない。

2年次以降では、学生の技量に合わせ、各担当教員の指示によりイタリア語だけに留まらずドイツ語・フランス語・日本語の歌曲及びオペラ・アリア、宗教曲にもレパートリーを拡げる。英語・スペイン語・ロシア語作品を取り上げる場合もある。

また、古典・ロマン派・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につける。4年間を通じ、演奏者としての豊かな感性と表現力を養うことを目標とする。

【到達目標】

正しい発声法を習得すると共に、歌詞や音楽を深く理解し、響きのある声で表情豊かに歌うことができるようにする。また、幅広いレパートリーに対応可能な知識を身につけられるようにする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

声楽専攻生、副専攻生

【授業の形式】

実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

1年次:後期実技試験、2・3年次:前期・後期実技試験においては任意の1曲を演奏する。

4年次:卒業試験(後期)では、オペラ・アリア1曲及び2か国語以上・二人以上の作曲家による5曲の歌曲(うち1曲はオペラ・アリアに代えても良い)を提出し、任意のオペラ・アリア1曲と試験当日抽選の2曲、計3曲を演奏する。(1年次・4年次の前期

試験は行わない)

成績評価は実技試験の採点結果をもとに行う。

【事前・事後学習-前期】

事前に指示された楽譜の内容を検討したり、音源を聴いたりしてくる。授業内容を復習し、関連の書籍に触れる等、授業との関連を常に意識しておくこと。(目安30-60分程度) 声楽は歌曲、オペラアリア等の歌唱の際に各外国語の正確な発音、歌詞の深い理解が必要となり、イタリア語、ドイツ語、フランス語等のディクシオンの授業をしっかりと勉強しておくこと。平日頃から自分の声の鍛練に磨きをかけること。

【事前・事後学習-後期】

事前に指示された楽譜の内容を検討したり、音源を聴いたりしてくる。授業内容を復習し、関連の書籍に触れる等、授業との関連を常に意識しておくこと。(目安30-60分程度) 声楽は歌曲、オペラアリア等の歌唱の際に各外国語の正確な発音、歌詞の深い理解が必要となり、イタリア語、ドイツ語、フランス語等のディクシオンの授業をしっかりと勉強しておくこと。平日頃から自分の声の鍛練に磨きをかけること。

【オフィスアワー】

レッスン終了後、あるいは後程、教師にメールで質問する。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

専攻実技(作曲)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	6単位	対象年次	学部1年～

【授業の概要】

古典の範例を音楽的技法としてまず的確に学ぶこと、その上で他者(演奏家を含むあらゆる領域の表現者)あるいは異文化領域(科学、哲学、言語等)に積極的に触れること。それによって、等身大の自己をその時々によって見極め、興味の対象を明確にし、発想を着実に且つ徹底的に掘り下げ、最終的に作品への定着によって、自らを相対化し、表現を新しくする。演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

- 1) 西洋音楽史上の基本的な作曲技法の習熟をはかる。
- 2) 作曲専攻生に特化された授業(作曲法演習、特任教授特別講義、作曲支援プログラム等)により専門性を深化させる。
- 3) 学内外で実施される作品の応募等に果敢にチャレンジし、自らの作品を「音」にする機会を積極的に作る。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

作曲専攻生及び副専攻生

【授業の形式】

【対面を中心】演習。レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
			○		

【成績評価の要点②】

年一回の作品提出(規定による卒業作品、オーケストラ作品、および演奏審査を含む)。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時確保します。

【教材】

適宜

専攻実技(指揮)				
担当教員			曜日時限	
実施キャンパス	単位	6単位	対象年次	学部1年～

【授業の概要】

多様な楽曲の中からそれぞれに適した楽曲を学び、実習を通して指揮者に必要な技量の習得を目指す。

【到達目標】

それぞれの学習状況に応じた課題に取り組み、指揮者としての音楽的な表現や技量の習得を目指す。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

指揮専攻生および副専攻生。

【授業の形式】

試験は2台のピアノを指揮する形で行う。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

主に試験の評価による。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

原則として月曜日から金曜日の午後、仙川教員室で。

【教材】

オーケストラ・スコア、斎藤秀雄著「新指揮教程」など。

副科実技(ピアノ)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	2 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

各々の進度によって、音階から始まり、比較的容易な独奏曲・対位法作品から演奏領域を拡げ、可能であれば協奏曲まで体験できる試験の構成を持つ。また、初見にも慣れるため、試験ではごく簡単な初見課題も含まれる。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

日頃、伴奏・アンサンブル等共演しているピアノ音楽に直接触れることで、幅広い音楽への理解をより深める。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

副科ピアノ履修者

【授業の形式】

レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する(初見の評価は成績に反映されない)。

毎週のレッスンへの相応な準備と、レッスンでの積極的な学習姿勢が求められる。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。

【オフィスアワー】

随時。

【教材】

副科ピアノ履修案内を参考に。

副科実技(弦楽器)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	2 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

旋律楽器の V1, Va, Vc, Cb で専攻以外の楽器を体験し、演奏家としての幅を広げる。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

音楽全般への理解を深める。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

副科ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス履修者。未経験者でも履修可能。

【授業の形式】

【対面を中心】演習。実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。

【事前・事後学習-前期】

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し習得できるよう練習する。レッスン後には修正点や今後の課題について確認し、復習する。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し習得できるよう練習する。レッスン後には修正点や今後の課題について確認し、復習する。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

火曜日 午後 仙川教室にてレッスン前後に時間を確保します

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

副科実技(管楽器、打楽器、ハープ)					
担当教員			曜日時限		
実施キャンパス	単位	2 単位	対象年次	学部 1 年～	

【授業の概要】

専攻外の楽器を体験する中で、演奏家としての幅を広げる。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

専攻以外の楽器を体験し、音楽全般への理解を深める。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

副科管楽器・打楽器・ハープ履修者

【授業の形式】

実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時対応する。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

副科実技(古楽器)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	2単位	対象年次	学部1年～

【授業の概要】

専攻外の古楽器を体験する中で、演奏家としての幅を広げる。各自のレベルに応じた実技レッスンを通して、古楽演奏に必要な技術、知識、理解力を養う。また、古楽器と現代の楽器の関係について考察する。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

モダン楽器とは異なる古楽器の演奏法と表現の習得を目的とする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

副科古楽器履修者

【授業の形式】

【対面を中心】演習。 レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

実技試験の成績により評価する。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時対応する。

【教材】

レッスン時に各担当教員により指示する。

副科実技(声楽)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	2単位	対象年次	学部1年～

【授業の概要】

個人レッスンの中で、声楽に関する知識と技術を学ぶ。1年目の履修者については、発音・アクセント・ブレスの位置等基礎技術の習得を中心とする。また、Concone等のヴォカリーズによる練習曲を用いて腹式呼吸・頭声発声を体得しながら、イタリア古典声楽曲集を学ぶ。学生の実力や履修年限によっては、教師の判断により、さらに幅広いレパートリーに取り組む。

【到達目標】

声楽の基礎を学び、響きのある声で表情豊かに歌えるようにする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

副科声楽履修者

【授業の形式】

実技レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

試験は前期、後期の2回行う。(履修1年目の学生、及び大学1年次の前期試験は行わない。高校時、副科声楽を履修した者も同様である。)試験においては任意の1曲を演奏する。成績評価は実技試験の採点結果をもとに行う。

【事前・事後学習-前期】

事前に指示された楽譜の内容を検討したり、音源を聴いたりしてくる。授業内容を復習し、関連の書籍に触れる等、授業との関連を常に意識しておくこと。(目安30-60分程度)

声楽が初めての履修生が多いので、声楽に慣れ親しむようにする。一年目の試験はイタリア古典声楽歌曲から課題が出されるのでイタリア語に親しむようにする。又、声楽の発声(頭部共鳴)をしっかりと体得する事。

【事前・事後学習-後期】

事前に指示された楽譜の内容を検討したり、音源を聴いたりしてくる。授業内容を復習し、関連の書籍に触れる等、授業との関連を常に意識しておくこと。(目安30-60分程度)

声楽が初めての履修生が多いので、声楽に慣れ親しむようにする。一年目の試験はイタリア古典声楽歌曲から課題が出されるのでイタリア語に親しむようにする。又、声楽の発声(頭部共鳴)をしっかりと体得する事。

【オフィスアワー】

レッスン終了後、若しくはレッスン終了後、教師にメールで連絡を取り質問等をする。

【教材】

レッスン時に各担当教員より指示する。

副科実技(作曲)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	2 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

- 1) 基本的な作曲技法の学習および作品の作曲。
- 2) 自らの作品を「音」にする機会を積極的に作り発表する。
- 3) 作曲することにより、各々の専門の楽器について、異なる角度からの理解と視点により、更に楽器(または声楽、電子音響による)音楽の将来的可能性を考える。
- 4) 作曲家の想像力を演奏家としてどのように受け止めるべきか、また創作の本質的な豊かさとは何かを考える。
演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

古典の範例に学びつつ、具体的な作曲技法を身につける。その上で、各々の創作にたいする興味の対象を明確にし、作品を作る。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

副科作曲履修者

【授業の形式】

演習。レッスン

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
			○		

【成績評価の要点②】

年一回の作品提出

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

随時確保します。

【教材】

適宜

副科実技(指揮)				
担当教員		曜日時限		
実施キャンパス	単位	2単位	対象年次	学部1年～

【授業の概要】

それぞれの学習段階に適した楽曲を学び、実習を通して指揮の技量の習得をめざす。

【到達目標】

それぞれの目的や学習状況に応じた課題に取り組み、指揮者としての音楽的表現や技量の習得をめざす。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

副科指揮申込者

【授業の形式】

試験は2台のピアノを指揮する形で行う。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○					

【成績評価の要点②】

主に試験の評価による。

【事前・事後学習-前期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【事前・事後学習-後期】

レッスンを振り返り、技術改善の課題をまとめる。次回レッスン準備の際に生じた疑問点を整理しておくこと。(目安30-60分)

【オフィスアワー】

原則として月曜日から金曜日の午後 仙川教員室で。

【教材】

斎藤秀雄著「新指揮法教程」、スコアなどの楽譜。